

令和5年度【放課後等デイサービス】 自己評価アンケートまとめ

職員による自己評価

専用に作られた建物のためバリアフリーになっており、広さも十分にある。一人ひとりの児童に対応可能な職員配置はできているが、児童の年齢が上がり男性職員のニーズが高まっているとともに、児童の特性に対応する際やマンツーマンの支援が行き届かない際に課題を生じている。多機能型の施設であるが、放デイの人数の割合が多くなりすぎている。虐待防止研修や事業所で必要な事案は全員の職員が研修を行い、情報共有している。非常勤職員を含む会議を望む声もあるが時間確保が難しく、非常勤職員に児童の支援に必要な情報を届ける努力を続けている。児童に幅広い活動を提供するため、各家庭のご希望を伺い、実費負担での余暇活動も取り入れた。

保護者による評価

児童19名のうち16名の回答をいただいた。職員の人数や専門性、障害児支援研修などを実施しているのかなどを知りたい方が2名。送迎では常に職員2人体制にしてほしいと望まれる方が3名。玄関が施錠されていない(他事業所のご利用者、職員もトイレを使用するため施錠していない)ため防犯面で心配という声が1名。保護者同士の交流の機会を望んでいる方が多く、お祭りが開催されなかったことについて感染症が流行っているのでできなくても仕方がないという意見と、開催しない旨の連絡がなかったという意見をいただいた。子どもたちが通所を楽しみにしており、事業所の支援について高評価をいただいている。



事業所内での分析

保護者同士の交流について4月初旬にHappyConcertを開き、当事業所からは2名の方が参加してくださったが、夏祭りや餅つきが行われなかったため、多くの方が開催されていないと感じている。緊急時対応マニュアルを面談でご覧いただき、今年度は周知・説明にご理解を多く得られたが、周知・説明はできているともできていないともいえないと回答されている方もいらっしゃる。送迎は児童の様子により2人体制で行うこともしている。職員体制なども含め保護者から見えにくい部分についてご理解を得られるための努力が必要である。非常勤職員についても情報共有や支援のポイントについての打ち合わせの時間確保の努力が必要である。

事業所の強み

様々な特性を持った児童が過ごすために作った施設なので、過ごしやすい環境である。法人で広場を保有しており、外で体を動かすことができるのびのびと過ごすことができる。動物と触れ合うこともできる。一人ひとりの児童に合った生活面、コミュニケーション力、遊び、宿題の支援を行っている。職員の勤続年数が長くなり、児童の状況に合わせた適切な支援を行う協力体制が築きやすく、風通しの良い職場環境である。

事業所の改善点

多機能型施設であり、児童発達支援と放課後等デイサービスのそれぞれの計画、特性や年齢に適した課題プログラムの計画が幅広く難しい点。特に学校の長期休みのプログラム計画では、児童発達支援と放課後等デイサービスのご利用時間が異なり、打ち合わせや計画の時間確保に困難を抱えている。緊急時、防犯、感染症対応に関するマニュアル等が保護者や非常勤職員に周知が進んできたが、十分ではない。

事業所の改善への取り組み

保護者の皆様へ、おたよりや面談、ホームページ、日々のコミュニケーションなどを通し、業務に関する情報を丁寧に発信していく。緊急時対応、防犯、感染症対応のマニュアルを全職員にも周知・説明を図っていく。風通しの良い職場の風土を保ち、児童に温かい支援を提供していく。